

夏も火災に注意しましょう！



夏は、バーベキューや花火など、火を使う機会が増える季節です。また、気温・湿度の上昇によりエアコンや扇風機などの空調機器が活躍する季節でもあります。夏でも私たちの身の回りには、多くの火災危険が潜んでいます。火の取扱い方法、製品の使用方法などいま一度確認していただき火災予防を心がけましょう。

〇火災を防ぐポイント

・バーベキューの火起こしなどに使う着火剤は揮発性があるため、つぎ足しは厳禁

火起こしの際には、だれでも簡単に火を起こしやすくするための補助燃料として着火剤がよく用いられます。この着火剤を、火が弱くなってきたからといって、つぎ足すことは非常に危険です。突然火が大きくなったり、火が飛び散ったりしたことで、火傷をした事故が報告されています。着火剤には揮発性が高く引火しやすいメチルアルコールが使われているため、途中でつぎ足すと、大きな炎が上がったり爆発したりするおそれがあります。また、使用后、着火剤のふたをあげたまま火の近くに放置したため引火・爆発した事故もあります。着火剤を用いて点火するときには、十分な距離を取り、適量を守る、つぎ足しは絶対にしないようにしましょう。

・花火遊びには必ず大人が付き添って、浴衣姿の時は特に注意

花火には必ず大人が付き添い、火の危険性を教え、着火用のライターはこどもの手の届かないところで管理し、こどもだけで遊ばせないようにしましょう。また、燃えやすいもののない広い場所で行い、水の入ったバケツを用意するなど、注意表示を必ず守りましょう。

また、浴衣は綿素材のものが多く、花火やろうそくなどの火が浴衣に燃え移ると、一気に燃え広がる可能性があるため、注意が必要です。花火やろうそくなど火を使う場所では、浴衣の袖や裾などが火に触れないように、十分距離に注意しましょう。

・制汗スプレー等に火は厳禁

制汗スプレー、殺虫剤や虫よけスプレーなどのエアゾール製品には可燃性ガス（LPG）が含まれています。制汗スプレーを使用直後にライターを使用しタバコを吸う、虫よけスプレーを使用直後に花火で遊ぶ、これらは着衣着火する恐れがあります。可燃性ガス（LPG）を含むスプレーを使用する際は、身体表面や空間に可燃性ガスが滞留する恐れがあるため、火気の取扱いには注意しましょう。

・リチウムイオンバッテリー内蔵製品やスプレー缶を車内に放置しない。

モバイルバッテリーなどのリチウムイオンバッテリーを内蔵している製品は熱の影響で異常な反応が起きて破裂・発火するおそれがあります。スマートフォン、モバイルバッテリー、スプレー缶などの高温下での使用や保管を禁止している製品は車内に放置しないでください。

また、車内にペットボトルを放置するのも危険です。ペットボトルを放置しておくと収れん火災を引き起す原因になります。

※収れん火災とは

水入りのペットボトルや水晶玉など凸レンズ状の透明な物体、あるいは凹面鏡状の反射物によって、太陽光が一点に集中し、可燃物を発火させることによって起こります。

※スマートフォンやタブレット、モバイルバッテリーなど、繰り返し充電して使える「リチウムイオン電池搭載製品」の事故は年々増加しており、特に春から夏にかけて気温の上昇とともに増加する傾向があります。2020 年から 2024 年までの 5 年間で独立行政法人製品評価技術基盤機構（以下、NITE）に通知された製品事故情報では、「リチウムイオン電池搭載製品」の事故は 1860 件あり、そのうち約 85%(1860 件中 1587 件)が火災事故に発展しています。